

少人数教育の充実に向けた取組

【会津教育事務所】

学 校 名	会津若松市立一箕小学校
学年・教科等	第4～6学年・算数科

T・Tと連動した算数科における少人数教育の取り組み

<取組の内容>

「少人数教育のための加配」におけるきめ細かな指導は、ティームティーチングによる個に応じた指導をさらに発展的に展開することを目的としたものであり、少人数教育はティームティーチング（T・T）の一環として位置付けられる。

- T・Tと少人数教育・・・T・Tは「協力教授」と言われ、1学級に複数の教員が入って指導に当たり、時には同時に、ある時には一部の児童を取り出したり、学級を複数分割したりして、指導にあたるなど、様々な指導形態をとるものである。本来T・Tのほうが広い概念であり、協力教授の一つの手法として、少人数教育という形態をとることがある。
- その趣旨・・・・・・・・児童の個人差に応じた指導方法の一つであり、児童一人一人の興味関心や習熟の程度、理解状況などに応じた学習課題や内容、学習方法を与え、児童自らが学習を進められるようにすること
- 少人数教育の本質・・・・・・・・少人数指導とは、その字の通り「少ない人数」で進めることであると考える人が多い。しかし「少ない人数」にした場合でも、児童の個人差に応じる指導を行うためには、習熟の程度や理解及び興味・関心の状況に応じた内容や方法が一人一人に準備されていなければ、その趣旨を活かしたことにはならない。少人数教育は単に少ない人数にすることだけではないのである。
- ティームを組むために・・担任は、学級の壁をはずし学年で児童を育てる意識をもつこと。「そうは言っても、まずは学級を」という意識を最初から捨て去ること。学級王国的な考えでは、この指導による学習の成功はない。学年の児童を、複数の担任とT・T担当の教員・コアティーチャーがティームで育てるのだという意識をもち、協力し合って指導に当たる。
- コース設定の留意事項・・少人数教育は原則として、特に習熟度別学習などは、単元を通してコースを固定しないほうがよい。学習内容や児童の実態に応じて様々な方法や形態をとることのほうが望ましいからである。

- 指導方法の配慮事項・・・特に気をつけたいことは、少人数であれば、少人数であること
 のよさを生かした指導内容や指導方法になっているのか、あるいは、この単元やその内容がなぜ少人数教育にふさわしいのか、を常に問うておきたいものである。「少ない人数」であるにもかかわらず、40人学級での指導と同じになってしまう事例も見かける。少人数の教育は、そのコースによって展開の仕方や指導方法がすべて異なっていることが原則である。そのコースも、教科書の内容の通りそのまま行うことはありえないことである。
- よりよいコース計画・・・「①単元の前半 ②単元の途中 ③単元の終末」でのコース計画となるが、多くの実践を振り返ると、②と③の組み合わせがよいと考えられる。すなわち、一つの単元の中で一斉学習と少人数学習を何回か繰り返す学習計画である。

< T・Tと連動した算数科における少人数指導のモデル >

* T・Tと連動した少人数指導

「教職員配置のあり方等に関する調査研究協力者会議」より

“・・・だからT・Tがなくなるわけではありません。むしろ少人数指導という新しいスローガンのもとで、T・Tのさらなる展開が期待されている、というのがより真意に近いと思います。(後略)“

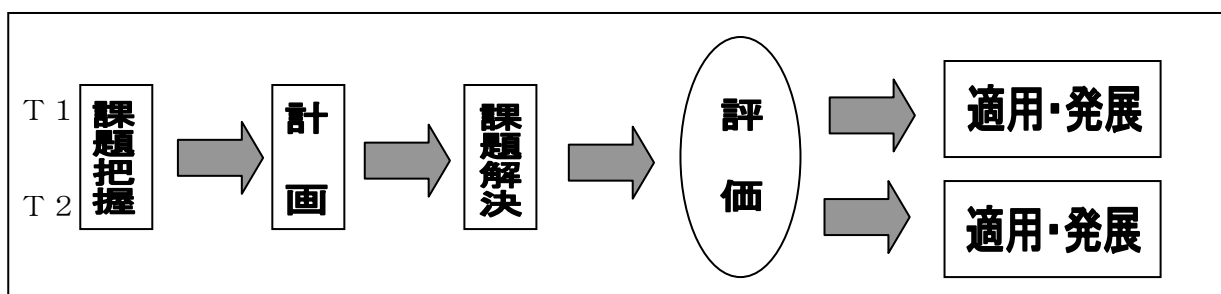
高浦国立教育政策研究所初等中等教育研究部長



少人数教育はT・Tの一形態

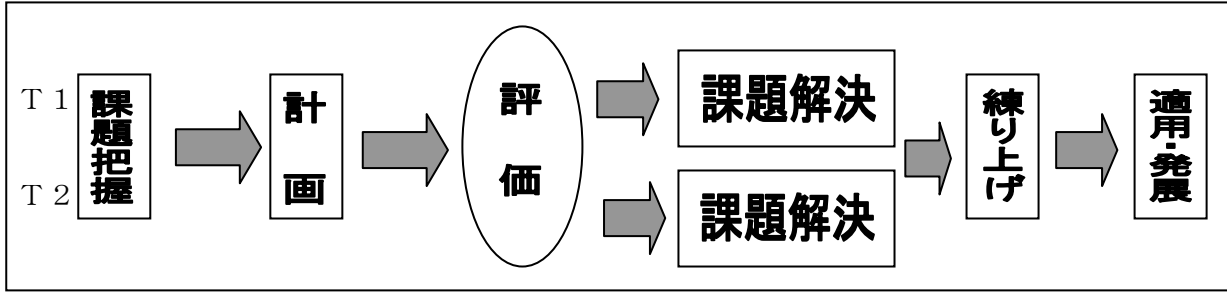
T・Tと連動した少人数教育のモデル

A：一斉指導のよさを活かした学習①（T・Tの指導・T1による少人数学級指導）



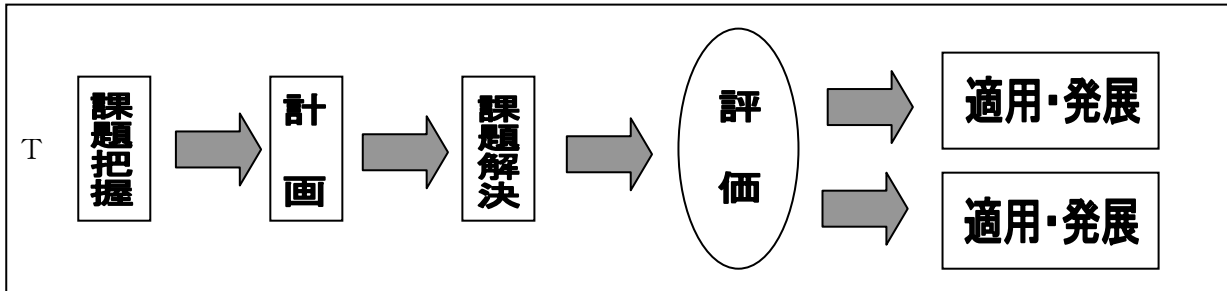
* 1クラスに2Tで実施（1クラス1Tでも可）

B：一斉指導のよさを活かした学習②（T・Tの指導・T1による少人数学級指導）



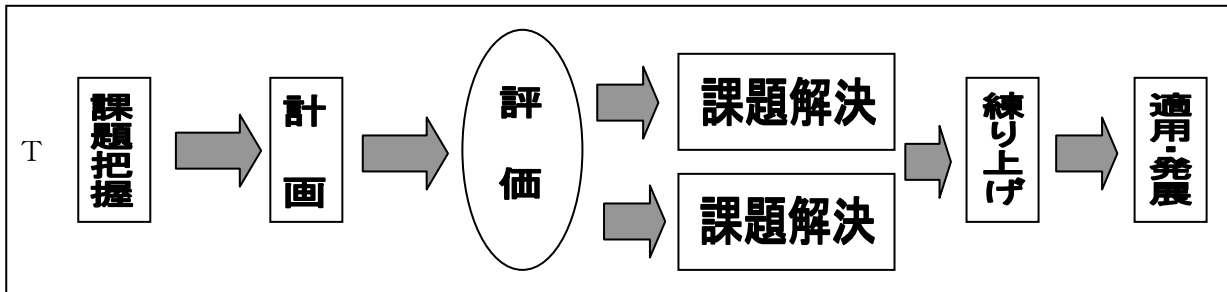
* 1クラスに2Tで実施（1クラス1Tでも可）

C：教師の人間性が活きる学習①



* 1クラスまたは1グループに1Tで実施

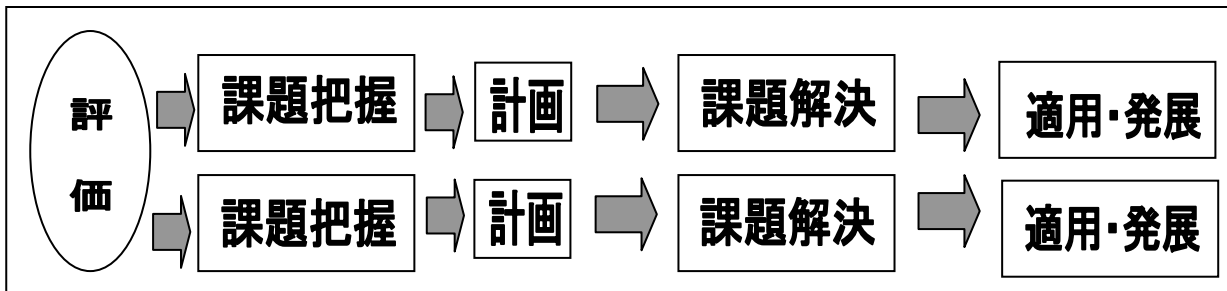
D：教師の人間性が活きる学習②



* 1クラスまたは1グループに1Tで実施

E：学習内容の理解や習熟の程度に応じた学習（習熟度別学習①）

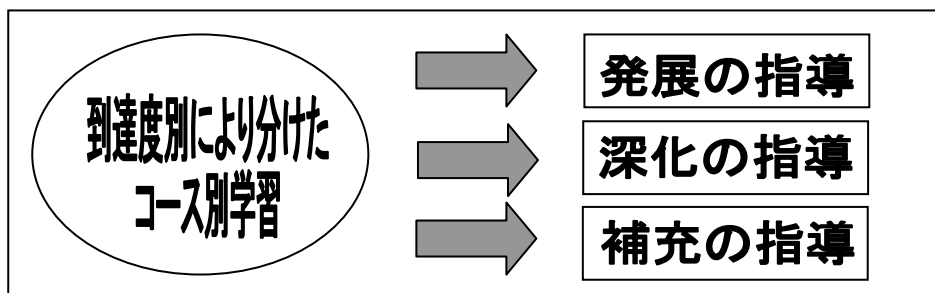
○子ども達のレディネスや習熟度に大きな差がある場合（単元初）



* 6グループ6Tで実施

F：学習内容の理解や習熟の程度に応じた学習（習熟度別学習②）

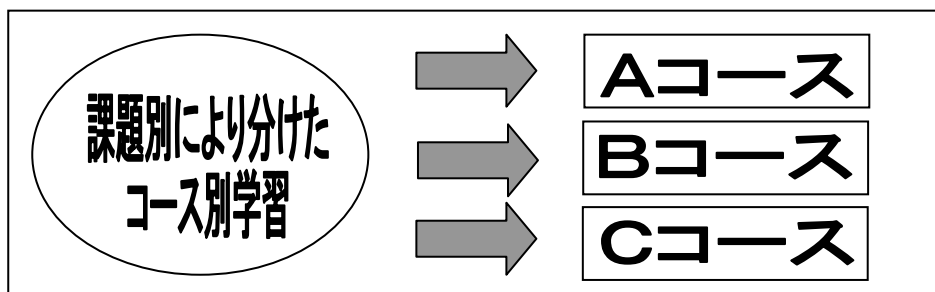
○子ども達の習熟度に大きな差がある場合（単元末・単元途中）



*必要に応じて3～6コース6T

G：興味・関心等に応じた課題別学習（課題別学習）

○子ども達の興味・関心に応じる場合



<成果と課題>

- 少人数教育を効果的に進めるためには、校内の指導体制を根本から見直す必要がある。そのためには複数の教員が協力して行うT・Tによる指導が効果的であると考えられる。今年度は、加配教員・担任（4名）・TT担当、そして算数のコアティーチャーによる臨機応変なTTによる指導が大変効果的であった。
- 複数の教員での対応であるため、少人数のよさを生かせ子ども一人一人のつまずきに対応することができたと考えられる。また、上位児においても到達度をもとに習熟度別の課題を提示し授業を行うことで満足度も高く、学び続けるモチベーションを十分高めることができた。
- また、TTによる指導は授業ばかりでなく、単元の計画・授業の前後についても教材分析を共同で行うため、教師自身の授業力を高めることができたと考えられる。
- 今後この体制を長く継続することが課題であり、人的な配置も含めて各関係機関に協力を要請していく必要がある。